

2022 すいせん図書

～本の森へ～



西東京市図書館

butano fontc-bu



図書館のホームページから、
すいせん図書を見ることが出来ます

1・2年生

「すきなことにがてなこと」

新井洋行 作 嶽まいこ 絵／くもん出版

きみのすきなこと、にがてなことはなんですか？ぼくはスポーツがだいすきだけど、みんなのまえにでてはっぴょうするのはにがてなんだ。でもだいじょうぶ。それはせかいじゅうのひとが、だれかのすきとだれかのにがてでつながっているから、というすてきなおはなしです。



「どこからきたの？おべんとう」

鈴木まもる 作・絵／金の星社

きょうはのはらでおえかき。ぼくは、おべんとうばこをあけた。すると、おべんとうといっしょにおかあさんのかいたカードが出てきた。

「たまごやき」や「ポテトサラダ」のできるまでがわかるえほんです。



「おばあちゃんのたからもの」

シモーナ・チラオロ 作 福本友美子 訳／光村教育図書

きょうはおばあちゃんのたんじょうび！おばあちゃん、きつとよろこぶよ。だってかぞくみんながあつまるんだもの。でもおばあちゃんのうれしいかおには、かなしいかおも、びっくりしたかおも、しんぱいそうなかおもぜんぶまざってるみたい。

おばあちゃんのおもいでがたくさんあることがわかるえほんです。



「きみのなまえ」

あんずゆき 作 かなざわまゆこ 絵／佼成出版社

たくとは学校からの帰り道、よごれた大きな茶色い犬をみかけます。家に帰って、犬がだいすきなお母さんに話してみると、保健所のひとにつかまえられるまえにうちでかってあげようか？と言ってくれました。たくとお母さんは犬をさがすために、はり紙をすることにしました。読むところがあたたまるおはなしです。



「かずさんの手」

佐和みずえ 作 かわいちひろ 絵／小峰書店

今年で九十六才になるかずさんは、みかのひいおばあちゃん。いつも手あそびうたやお手玉で、あそんでくれるかずさんが、みかは大すきでした。

夏のある日、かずさんはみかに、かんごしをしていたおかしの話をしてくれました。1945年8月9日、長崎に原爆がおとされた日のおはなしです。



「くまのピエール」

イブ・スパンク・オルセン 作 菱木晃子 訳／こぐま社

ピエールはスティーヌの家でくらす、小さなくまのぬいぐるみです。スティーヌの役にたちたいとはりきりますが、いつもちょっとからまわり。ある夜、空に出ていた月を大きなお金とかんちがいしたピエールは、スティーヌのかわりにとりにいこうと出かけます。おとぼけピエールのたのしい毎日をのぞいてみませんか。



「ハヤクさん一家とかしこいねこ」

マイケル・ローゼン 作 ないとうふみこ 訳 トニー・ロス 絵／徳間書店

いつも、おあわてのハヤクさんちのおとうさんとおかあさん。きょうは、おすこのハリーを学校へおくっていくのをわすれて、会社に行ってしまう。そのようすをみていた、かしこいねこのトラーは、おとうさんをおいかけました。

トラーとハヤクさん一家のゆかいなおはなしです。



「たいせつなぎゅうにゅう」

キッチンミノル 著／白泉社

まちのようちえんのごはんのじかん、つくえのうえにはいつものぎゅうにゅうが。そのぎゅうにゅうは、ほっかいどうのたんぼほくじょうのうしたちから、しばったものです。ごぜん4じ30ぷんからはじまるほくじょうの一日を、しゃしんでたのしく、見てみましょう。



3・4年生

「パンフルートになった木」 巢山ひろみ 文 こがしわかおり 絵／少年写真新聞社
わたしは、^{ふえ}笛のなかまのパンフルートです。^{がっき}楽器になるまえは、^{しょうがっこう}小学校の校庭にあつた^{きょうしつ}カイヅカイブキの木でした。あのころは、^{せんそう}教室から^{うた}こどもたちの歌声がきこえてくるのがたのしみでした。だけど^{せんそう}戦争がはじまり、ある夏の朝、^{ばくだん}爆弾があちて、わたしは^{くろ}黒こげになってしまいました。パンフルートに生まれかわった^{ひばくじゆもく}被爆樹木のお話。



「ジョナスのかさ」 ジョシユ・クルト 文 アイリーン・ライアン・イーウェン 絵 千葉茂樹 訳／光村教育図書
ジョナスさんは、あめにぬれることがだいっきらい。あめがふると、しっかりとしたブーツをはき、ぶあついコートをみにつけ、つばのひろいぼうしをかぶってでかけます。でも、どんなみちをあるいても、びしょびしょにぬれてしまいます。かさをさしてでかけることが、あたりまえではなかったころのお話です。



「「いたいっ！」がうんだ大発明ーばんそうこうたんじょうものがたりー」
パリー・ウィッテンシュタイン 文 クリス・スー 絵 こだまともこ 訳／光村教育図書
今から100年くらい前のアメリカのお話。アール・ディクソンさんの奥さん、ジョゼフィーンさんは、なにをやってもぶきようで、指先を切ったり、やけどをしたり、手はきずだらけ。お父さんがお医者さんで、病院でつかうぼうたいなどを作る会社につとめていたアールさんは、奥さんのきずを手当てする方法を考えた。「バンドエイド」の意味もわかる、ばんそうこうのはじまり物語です。



「さくら村は大さわぎ」 朽木祥 作 大社玲子 絵／小学館
さくら村には、さくらの木がたくさん植わっています。昔から子どもが生まれたら、さくらの苗木を一本、植える約束があったからです。そんなさくら村は、毎日おもしろい事件で大さわぎ。さて、今日はどんな事件がおきたのでしょうか。なにげない毎日を大切に思うことができる、楽しくてあたたかいお話です。



「サイコーの通知表」 工藤純子 作／講談社
通知表に「できる」とだけ書かれた朝陽は、通知表ってなんであるんだろう？と思います。「よくできる」がっぱいの叶希も、体育以外は「もうすこし」ばかりの大河も、心の中では思っていました。朝陽の「ねえ、先生の通知表をつけようよ」の一言で先生の通知表づくりが始まります。人の良いところを見つける物語。



「クモのアナシージャマイカのむかしばなしー」 フィリップ・M.シャーロック 再話 小宮由 訳 マーシャ・ブラウン 絵／岩波書店
アナシは、ずるがしこくて食いしんぼうの小さなクモ。人間のようにふるまい、知恵をつかって、自分よりずっと大きなトラやワニを手玉にとったり、王さまや王女さままでだましたりします。ときどき悪だくみが失敗するけれど、こりずに賢く立ち回ります。カリブ海の島々で語りつがれてきたゆかいな14のお話です。



「ラビット・ホッピング！ーうさぎがほくのパートナー！ー」 マーリン・エリクソン 作 きただいえりこ 訳 森山標子 絵／理論社
両親が妹の入院につきそうため、ほくはおじいちゃんにあずけられた。ある日、庭にうさぎが入ってきた。近所に住むブリーダー、イルラのところから逃げてきたらしい。イルラといっしょに世話をしているうちに、ほくはうさぎとなかよくなった。少年がうさぎと心を通わせ、障害物をとびこえていく競技、ラビット・ホッピングに出るお話です。



「フクシマー2011年3月11日から変わったくらしー」 内堀タケシ 写真・文／国土社
2011年3月11日、東日本大震災が発生しました。地震と津波の影響で、福島第一原子力発電所が事故をおこし、大量の放射性物質が大気中に放出されました。この事故によって、福島にあった日常は変わりました。事故から10年が経過した福島の「いま」を伝える写真絵本です。



5・6年生

「ケイン、きょうもよろしくね!」 ソンギョク文 ペクウンジュ文 シンドゥヒ 絵 高橋昌子 訳/新日本出版社
けがをした人の松葉杖、お年寄りのための杖一世の中には色々な「杖」があります。
このお話の主人公は、目がみえづらなくなった女の子「わたし」と白い杖の「ケイン」。
ケインは今わたしの前に何があるのか、歩いている道がどんな場所なのか伝えて、
一歩ふみだす勇気をくれます。ハンディキャップについて考える絵本です。



「クルミ先生とまちがえたくないわたしー藤島クリニック再生計画ー」 令丈ヒロ子 作 難川まつり 絵/ポプラ社
基季は小学5年生。パパと二人ぐらしのため、パパが仕事で地方に行く四日間、パパのいとこのクルミ先生というお医者さんのところに行くことになった。小児科のクリニックを開業して一人ぐらししているという。すてきなドクターと、おしゃれライフを想像して行ったところ、全然違ってた。古い建物で、患者さんも少ないらしい。しっかり者の基季がクリニックを再生するために奮闘する物語です。



「ビワイチ!ー自転車で琵琶湖一周ー」 横山充男 作 よこやまようへい 絵/文研出版
ビワイチ。滋賀県の子どもなら、いちどは挑戦すべきこと。それは自転車で、琵琶湖を一周することだ。6年生になった斗馬は、クラスの半分くらいがビワイチをやっているのに、自分は自転車どころか、車でも電車でも琵琶湖を一周したことがないことに気づく。「いいこと、思いついたんだ。あれ、ビワイチやるよ。」そう友達の一太に宣言した斗馬が、仲間と力を合わせてビワイチに挑戦する物語。



「人魚の夏」 嘉成晴香 作 まめふく 絵/あかね書房
小谷知里のクラスに転校生がやってきた。男子にも女子にも見える海野夏はすぐに人気者になった。しかし、夏は本当は人魚だった。陸に上がったら、自分が人魚だということを信用するに足る人に話し、その人が1年誰にも話さなかったら、大人になってから陸で生活する権利が得られるという。知里は夏のために秘密を守っていく。将来を考えるために陸に上がった人魚の子と、秘密を知ってしまった少年の物語。



「ぼくはおじいちゃんと戦争した」 ロバート・K. スミス 著 こだまともこ 訳/あすなろ書房
フロリダに住んでいたおじいちゃんと、いっしょに暮らすことになったピーター。おじいちゃんが大好きだったので、とてもうれしかったが、そのために二階にある自分の大好きな部屋を、おじいちゃんにゆずらなければいけないことを知る。ピーターは、おじいちゃんから部屋をとりかえすために、宣戦布告の手紙を送り戦争をはじめた。おじいちゃんと孫とのやりとりが楽しい物語です。どちらが勝つのかな?



「シリアからきたバレリーナ」 キャサリン・ブルートン 作 尾崎愛子 訳 平澤朋子 絵/偕成社
アーヤは小さい頃からバレエが大好きな女の子。ふるさとのシリアで戦争がおこり、ママと小さな弟とイギリスにやってきたけど、生活するための手続きがうまくいかない。そんな時、古びたバレエスタジオで踊る少女たちを見つけ、心をうばわれる。戦争の悲しさに打ちめされながらも前を向くアーヤに勇気をもらう物語。



「ホタルイカは青く光る」 阿部秀樹 写真と文/小学館
体にある発光器を使って美しい青い光を出す、不思議な生き物ホタルイカ。ホタルイカの漁がさかんな富山県の富山湾では、産卵を終えたホタルイカが、海岸に大量に打ち上げられる「身投げ」とよばれるげんしょうが見られます。たくさんのホタルイカが青い光の波のようになって打ち上げられ、浜辺も青い光でいっぱいになります。鮮やかな写真とともに、ホタルイカの生態について詳しく紹介します。



「見ながら学習 調べてなっとく ずかん 世界のくつ・はきもの」 鈴木絵美留 監修/技術評論社
みなさんは外に出かける時、足に何ををはいていきますか? 世界にはさまざまな「はきもの」があります。たとえば、モロッコのバブーシュ、コンゴの端棒げた、オーストラリアのプーレーヌなど、写真つきでわかりやすくしょうかいされています。
この本には、くつやはきもの知識がたくさんつまっています。

